

さいたま市公民館運営審議会第4回会議 議事録

1 開催日時

令和6年10月22日（火） 14時00分から15時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 加藤 美幸 委員長
- ② 磯田 三津子 副委員長
- ③ 太田 祐子 委員
- ④ 大塚 晶子 委員
- ⑤ 加藤 恒 委員
- ⑥ 小森谷 由紀江 委員
- ⑦ 佐藤 一子 委員
- ⑧ 白石 徳一郎 委員
- ⑨ 富田 敏弘 委員
- ⑩ 西形 恵美子 委員
- ⑪ 山口 哲生 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- | | | |
|-------|----------|--------|
| ① 西 区 | 指扇公民館長 | 内ヶ嶋 直哉 |
| ② 北 区 | 大砂土公民館長 | 武笠 充裕 |
| ③ 大宮区 | 桜木公民館長 | 茂木 深雪 |
| ④ 見沼区 | 大砂土東公民館長 | 岩井 由起子 |
| ⑤ 中央区 | 鈴谷公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑥ 桜 区 | 田島公民館長 | 熊木 元巳 |
| ⑦ 浦和区 | 岸町公民館長 | 秦 利明 |
| ⑧ 南 区 | 文蔵公民館長 | 桑原 健司 |
| ⑨ 緑 区 | 大古里公民館長 | 酒井 浩志 |

〈事務局：8名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|--------------|-------|
| ① 館長 | 岸 聖一 |
| ② 参事兼副館長 | 井出 浩史 |
| ③ 主幹兼事業・企画係長 | 山田 浩行 |
| ④ 事業・企画係主査 | 蜂谷 香織 |
| ⑤ 事業・企画係主査 | 曾根 啓佑 |
| ⑥ 事業・企画係主事 | 小暮 裕貴 |

⑦ 事業・企画係社会教育指導員 松本 みはる

⑧ 事業・企画係社会教育指導員 成尾 千里

4 欠席者

〈委員：2名〉

① 小林 玲子 委員

② 島田 正次 委員

〈拠点公民館職員：1名〉

① 岩槻区 岩槻本丸公民館長 石関 達

5 事務局からの報告、説明等

・前回会議録について

6 配布資料

(1) さいたま市公民館運営審議会第4回会議 次第

(2) さいたま市公民館運営審議会第4回会議 席次表

(3) さいたま市公民館運営審議会第3回会議 議事録

(4) 取組評価シート

(5) 令和6年度 さいたま市公民館要覧

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 内容

・冒頭、事務局より前回会議録について報告を行った。

議題 「公民館ビジョンに基づく取組の評価について」

様式と論点について事務局より説明後、様式の体裁と実際の運用、来年度の評価に向けた着眼点について議論を行った。

加藤（恒）委員	取組評価の方法はプレゼンテーションか書面か。一度の会議で何館の想定か。
事務局	最初に対象の公民館が評価シートを作成、これを基にプレゼンテーションを行う。委員はそのプレゼンを基に評価を行い、評価シートを作成。このよう

	な流れを想定している。プレゼンの時間にもよるが一度に3～4館と思われる。
佐藤委員	今年度の取組についての評価とあったが、ビジョンを見据えた中長期的な取組や、短期的に行うこととした取組があると思うが、すべて同様に評価するのか。対象とする事業、事業期間をどう想定しているのか。
事務局	評価の着眼点として何を重視するかによると思う。中長期的な取組について評価することとなれば、そうした取組が評価対象になると考えている。
佐藤委員	公民館の評価シートの中で、短期もあれば長期を強調する館もあると思うが、それぞれに任せるという意味か。
事務局	各館で重視するものが異なるので、館の特色が現れると思われる。
加藤(美)委員長	公民館ビジョンに基づいた取組の評価ということで、3年間やってこの後も何年かかけて行う館や、単年で行う館もある。館によりセールスポイントが違うので、今までのものをさらに進めた取組や、新たなチャレンジ、トライには大変意味があるので、そちらも評価していきたい。様式はA4版の表裏よりA3版で左右に並んでいると考えやすい。着眼点の〇〇の部分はビジョンの三つの柱から選んだものが入るのか、審議会のオリジナルか。
事務局	着眼点については、審議会でオリジナルなものを設定していただければと考えている。
佐藤委員	各公民館の独自の取組という趣旨は理解できた。全館共通で触れて欲しいテーマはあるのか。地域ならではの課題や特殊性などに応じて強調したいこと、共通に触れて欲しい一般的な論点など、事務局に想定はないのか。
事務局	公民館ビジョンに関する理念をベースとして、地域や館の特性を想定している。基本的にはそれぞれの取組の特色、良い点を評価して欲しい。
加藤(美)委員長	市全体というより地域ならではの、その館の課題や特性を生かした取組を評価するという進めていきたいと思う。着眼点を複数提示してもらい選択する形はどうか。着眼点というより一番に実現したいことのための工夫や仕掛けの記述でよいと思う。 項目だけで検討するのは難しいので、今年度の取組で事例はないか。
秦館長	岸町公民館の文化祭で初の試みとして、小中学生からボランティアを募り、うさぎのモニュメントと子どもたちの記念撮影をする際の補助に携わってもらった。つながりづくりや世代間交流を図る目的の取組だった。
山口委員	公民館ごとにテーマの大きさ、計画のスパンの長さ、難易度の高さなど取組の内容が違っていると評価に困ると思う。このシートは全部記述式で評価が難しいと感じる。客観的に評価する〇×式や選択肢の部分と記述式の自由記述や特記事項による評価があってもよいと感じた。素晴らしい部分、各館の発想を評価し伸ばして欲しい。
大塚委員	取組期間について、令和3年度から3年間でどうなったかを評価するのは、取組が様々で難しいと感じた。皆さんこれまで頑張って取り組んできているので、令和6年度の取組に対する評価をした方がよいと思った。実際評価するのに取組シートの各項目に対する評価はいらないと思う。参考になる部分

	<p>や良かったことを具体的に書くほうが、他館の工夫を真似してみようと感じてもらえる。A3版なら、最初に公民館の取組シートがあると振り返りによいと思う。様式は、ある程度の決まりがあつて各館の評価ができるとうい。</p>
加藤(美)委員長	<p>令和3年と令和6年を比べ同じことをしている館もあるが、改善し効果が上がっている。取組シートの記述だけでは改善や努力が見えてこないので評価シートやプレゼンで取り上げられるとういと思う。</p> <p>前回の会議から時間が空くので、会議の都度、公民館ビジョンや取組シートを抜粋して配布して欲しい。</p>
白石委員	<p>各館の取組シートと今回の評価シートには、内容が重複する部分があるので、評価にあたる部分を整理したほうがよいと思う。</p>
加藤(美)委員長	<p>取組内容については、取組シートの記載と全く同じものになるので、取組シートに書かれていない意識したこと、この取組を通じて実現したいことを記入していただく。そのための工夫や仕掛けへと進んでいけると流れがよいと思う。</p>
加藤(恒)委員	<p>評価は結果のフィードバックや活用に関わってくる。バックボーンを持つ委員が感じることなので自由記述でもよいと思うが、様々な自由記述を各館が活用できるようにまとめていくのが非常に難しい。それを考えると、評価の項目を細分化せず自由記述で書けるような形、その中で重複した部分を整理、トピックごとにまとめる形が活用しやすくなると思う。</p>
加藤(美)委員長	<p>項目を細かく分ける必要はない。活用や評価のしやすさが大切なので、やりやすい様式、項目であつたらよいと思う。</p>
磯田副委員長	<p>自由記述で大きく括るという意見に賛成である。評価の項目を挙げ、それを選択して文章を作るようにできたらよいと思う。こんなふうを書くことができるとうい例があると書きやすいと思う。</p>
佐藤委員	<p>評価のプロセスがまだ具体的なイメージが持てない。グループで分担しディスカッション、委員相互のワークショップのような形で議論する。そこで個人の評価をストレートに出す形か、それともグループワークを経てある程度の共通認識で意見をまとめていく評価なのか。</p>
事務局	<p>前回の会議では90分間で3、4館のプレゼンを聞き、委員同士で比較するという話だった。グループに分かれるとグループごとに評価基準ができてしまい同一評価にならないとうい意見も出ていたと思う。</p> <p>プレゼンを行う館の選出については、区ごとの輪番制とうい提案がされていたと思う。選出に当たっては、審議会における評価の着眼点に合う取組を拠点館長が選出する方法もあると思う。どの着眼点に沿った取組を出して欲しい、どういった視点、どういった形で評価をしたいか、審議会でご協議いただきたい。</p>
山口委員	<p>あくまでも館の良いところを抽出、評価、他の館にも伝播してもらおう。ワークショップ形式だと全部評価できないが、意見が一致する「いいね」の部分を伝えられればよい。先ほどの客観的に評価する〇×式や選択肢の項目を作るとうい意見は取り下げる。</p>

加藤(美)委員長	独りよがりの評価にならないよう、グループで話し合いながら評価していく といろいろな意見が出てよいと思う。
小森谷委員	委員も様々な立場で参加しているので、いろいろな視点から評価できる。フ ィードバックをより良いものにするよう、様々な視点で評価するのがよいと 思う。
太田委員	いろいろな意見がある。皆で意見が出されるとうまくいくと思う。
加藤(美)委員長	やはりプレゼンしていただき、グループワークで評価シートを活用しながら 評価していく形がよいと思う。着眼点は、公民館ビジョンの目指すものから 外れないような形で「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の実現した いことが、その館の着眼点になっていくのではないかと。
富田委員	実際見て自分なりに評価の文章を書き、皆さんと照らし合わせてみたい。や ってみてわかることが多いと思うので、本番前に1回練習でやってみたい。
西形委員	着眼点のための工夫や仕掛けを見いだすのは難しいと思う。自信がないの で、一度やってみるのもよいと思う。
加藤(美)委員長	事務局で練習用として作成例を提供、プレゼンを実施し練習の機会を作って 欲しい。
大塚委員	評価シートのように文章化しないといけないと思うと文言が書きづらい。着 眼点も意図が伝わってこないのでアイデアがあればうれしい。 また、一生懸命やったがここが困った、という内容の記入があると、他の公 民館の情報や委員が持っている知識、こんな工夫ができますといったことも 評価の中に入れられると感じた。改善点は書きづらい。
加藤(美)委員長	改善点というより、今後どうしたらよいかといったやわらかい感じがよい。 困ったことなど書いてあるとアドバイスがしやすいと思う。
白石委員	プレゼンのときの要望だが、結果もセットでお願いしたい。岸町公民館のよ うな事例では、世代間交流をした結果地域の方から大変好評だった、小中 学生からまた参加したいという声があった、逆に小中学生を募るのが難し かった、など課題もセットされたプレゼンだと取組の様子がよくわかると思 う。
加藤(美)委員長	結果を入れ、その中に課題や参加者の声が入るとアドバイス、評価しやすい と思う。
山口委員	評価内容はどのような形で各館に知らせるのか。フィードバックはどのよ うに行われるのか。
事務局	評価の方法によりどういうアウトプットができるかわかってくると思う。グ ループワーク方式であれば、原則として拠点公民館長が各区の公民館に伝 えていくことになる。
加藤(美)委員長	ワークショップを行った館はその場でアドバイス等直接聞くことができ、評 価シートができ上がった段階で提供していただけたらと思う。 プラスアルファでどんなことができるか、委員の皆さんも次回までに考 えて欲しい。
佐藤委員	どのように評価するのか、具体的に見えてよかった。 この審議会が評価をする側、公民館が評価される側という意識になりがちだ

	が、共に問題や悩みを解決し、市全域でよりよい活発な公民館活動を行うためにどうしたらいいのかみんなで考えたい。問題点を審議会も一緒に考える機会にしていきたい。いろいろな議論が交わる共同作業というイメージである。
加藤(美)委員長	さいたま市公民館ビジョンの実現に向けて取り組んでいけると良い。

11 その他

次回の開催日時については委員長・副委員長と協議の上、後日通知すること、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールで開催予定であることを報告した。

12 閉会